

ト★ 東星学園だより

TOSEI

東京都清瀬市梅園 3-14-47 TEL 042-493-3201 <http://www.tosei.ed.jp>

□ 西武池袋線秋津駅 南口 徒歩 10分 □ JR 武蔵野線新秋津駅 徒歩 15分

vol. 29

漕ぎ出そう、私たちは希望の巡礼者

校長 大矢正則

2025 年は教会の聖年 (25 年に一度) の年に当たり、世界の教会は『希望の巡礼者』をテーマに、いっそう祈りを深めることによって神様の恵みに与ります。

人は意識的であるか否かは別として、絶えず罪のゆるしを求めて祈ります。聖年には神様に罪を告白し恵みによるゆるしをいただくことがより強く求められます。聖年は神様による無償の恵みの年でもあるのです。

人は罪から逃れることができない存在なのかもしれません。重大な罪を犯している現場から連行された女性がイエスの前に差し出される場面が聖書に描かれています。人々はその女性に石打の刑を求めます。そのときイエスは「罪を犯したことの無い者が、まず、この女に石を投げなさい」と仰いました。ところが、これを聞いた者は、年長者から始めて一人また一人と、立ち去ってしまったと書かれています (ヨハネ 8 章)。

こうした前提に立ってであると思いますが、教会は、今回の聖年のテーマを『希望の巡礼者』としました。

何らかの負い目を負っている人にとって、何が一番辛いでしょうか。いま、実際に起こっていることと向き合うことは辛いことです。しかしそれよりも辛いことは、こんなことがいつまでも続くのかと思ってしまうこと。希望を失ってしまうことが最大の苦しみです。

そんなとき、聖年『希望の巡礼者』のロゴは私たちに勇気づけてくれます。ロゴには真ん中に、赤、黄、緑、青の各色をした 4 人の人間のモチーフが描かれています。これは地球上の四方向から人が集まっていることを意味しています。それぞれの人が散り散りになっているのではなく、同じ方向を向いて身を寄せ合っており、それぞれが前の人を支えているようにも、前の人に頼まっているようにも見えます。それらの人々の下には海の波が描かれています。これは人々が巡礼者であることを象徴しています。巡礼では楽な道ばか

りを通るわけにはいきません。高波に翻弄されることもあります。巡礼は人生を指しています。人生において苦難はつきものです。大荒れの波の中を往かなければならないときもあります。何かにしがみついていないと大波に飲み込まれてしまいます。このロゴはそんなときのためにも救いを告げ知らせます。

第一に人々が散り散りならず、身を寄せ合って乗り越えようとしている姿に注目しましょう。第二に、こちらの方が根柢的なことなのですが、先頭の一人が十字架を抱えています。あるいは掴んでいます。このことによって、その他の人も沈まずにいられるのです。

人が寄り添っている十字架はまた、錨にも連なっています。この錨も重要です。私たちが荒波に遮られ前に進むことが困難なとき、敢えて進まずに留まることにも意義を見いだすことができます。ただし、そのときに自分の位置を見失っては、さらに苦しみ悶えることになりかねません。そんなとき、錨を下すことによって、漂流することを食い止めることができます。

嵐はいつか去ります。そのときに、錨を上げて再出発すればいいわけです。嵐が過ぎ去るのを待つことは辛いことです。しかし、海に投げ込んだ錨が十字架に連なっているのであれば、必ずあなたは救われます。助けられます。失敗・孤独・後悔は新しい何かの始まりです。十字架はそのシンボルです。人間の感覚からすれば、十字架上で処刑されてしまったイエスは大失敗をしたことになります。しかし、それは有限な人間の想像力の限りの話であり、神様からご覧になったら、救いの歴史の最大のターニングポイントであるのです。

ロゴ中の人々が独りでではなく、4 人が身を寄せ合っていることは、繰り返しになりますが重要です。人は他人と共にいることによって、十字架に結ばれ、神様と共にいる者となるのです。

私たちが疲れたときには、十字架のもとに錨を下ろし、嵐が過ぎ去るのを待ちましょう。そして、時が来たら錨を上げて、漕ぎ出そうではありませんか。

中学校・高等学校

「体育祭委員長への挑戦」

体育祭委員長 高等部2年 N・K



委員長としての役割は、全体を統括し、成功させるための計画を立て、各クラスや各係の意見を調整することでした。委員長を決めたときには誰も立候補が出ず、それならどうかと引き受けました。そんな自分に務まるのかという不安がありました。同時に新しい

挑戦への期待も抱いていました。

準備内容は多岐にわたり、クラス間で意見の違いや

時間的な制約もあり、スムーズに進まない場面も多々ありました。しかし、委員会のメンバーがしっかりサポートしてくれ、先生方の力を借りながら、無事に準備を終えることができました。

私は目立つのが好きなので、委員長として皆の前で喋ることは楽しい経験でしたが、「失敗したら自分にも責任があるのではないか」と思っていたところ、体育祭が終わったときにクラスメイトや先生方から「楽しかった」「いい体育祭だった」と言ってもらえたことが何よりの喜びでした。この経験を通じて、リーダーシップの大切さや、周囲と協力することの意義を深く学ぶことができました。また、困難に直面しても諦めずに取り組むことで、自分自身が大きく成長できることを実感しました。

体育祭委員長としての経験は、私にとって大きな挑戦であり、これからの学校生活においても忘れられない貴重な思い出となりました。この経験を糧に、これからも新しいことに積極的に取り組んでいきたいと思えます。

中等部学習旅行を終えて

学習旅行企画委員長 中等部3年 S・M

私たち61期は11月27日～11月29日の3日間、学習旅行に行ってきました。

私たちはまずテーマを繋に決めました。このテーマには「学年全員で繋がって団結力を深めながら学習旅行を楽しみたい」という気持ちと「学年だけでなく現地の方との繋がりも大切にしたい」という思いを込めています。行先は何度もプレゼンテーションを重ね愛



知県に決まりました。そのあとは班決めをしました。歴史班、食文化班、文化班、自然班、産業班に分かれそれぞれ

れの班ごとに事前学習をしました。

初日はカトリック布池教会で祈りの集いをしました。布池教会の神父さまは丁寧に布池教会の説明をしてくださいました。その後は熱田神宮に参拝しました。熱田神宮の神秘的な雰囲気を感じることができました。熱田神宮内にある草薙館も見学しました。草薙館では実際に刀剣を持つ体験ができ、刀剣の重さを身体で感じるすることができました。

2日目は班活動をしました。班ごとに分かれて学習をしました。夜のミーティングでは各班の学習の成果を発表しました。

3日目は名古屋城、徳川美術館を見学しました。

名古屋城では本丸御殿を見学しました。本丸御殿内には教科書に載っている有名な作品を見ることができました。徳川美術館では徳川家にまつわる様々な作品を見ることができました。

最初は無事に学習旅行を終えられるか不安もありましたが最終的には最高の旅行にすることが出来ました。今回の最高の旅行が出来たのは学年のみんな、先生方、家族、現地の方々など今回の旅行に関わってくれた全ての方々のおかげです。ありがとうございました。

学習旅行を終えて

学習旅行企画委員長 高等部2年 Y・A

私たち59期は、昨年の12月11日から14日までの4日間、愛知県へ学習旅行に行きました。学習旅行への準備は高校1年生の秋から始まり、多くのことを全員で決めてきました。特に大きなこととして、行き先、学習旅行全体のテーマ、論文を書くための個人テーマ

です。そして、これらの他にも、企画委員として細かい内容をみんなで相談して決めてきました。



学習旅行は様々な学校行事の中でも特に自主性が必要とされる行事であると私は考えます。高校生として、それぞれが自分の行動に責任を持ち、周囲や自分自身にどのような影響があるか考えながら行動する必要があります。先生方や家族にばかり頼るのではなく、自分で決めて行動しなければなりません。そのため、多くを考え、ときには悩むこともありました。しかし、企画委員の仲間と一緒にみんなで考え、一人ひとりが放棄せずに最後まで取り組んだことで、59期らしい学習旅行を迎えることができたと感じています。

学習旅行当日は想像していた以上に楽しく充実した

4日間の旅となりました。予定外のことが発生することもありましたが、班の仲間とともに自分たち自身で考えて解決したり、現地の方々親切にいただいたりして柔軟に対応することができました。このような経験を通して、自分たち自身の成長を感じることができ、また私たちを支えてくださる方々への感謝の気持ちを学年全員が感じることができたと思います。

最後になりますが、これまで関わってくださった全ての方々のおかげで私たちの学習旅行は成り立ち、多くの学びを旅先から持ち帰ることができました。成長したこれからの私たちにぜひご期待ください。

クリスマス会 ～願いを重ねる～

聖書朝礼委員長 高等部2年 Y・Y

本年も新しい年を無事に迎えられたことに感謝し、謹んで新年のお慶びを申し上げます。東星学園の関係者の皆様が主の平安とお恵みに満たされた豊かな1年を歩んでいくことができますようにお祈り申し上げます。

昨年は能登半島を始め日本各地で自然災害が発生しました。世界でも様々な国が衝突を繰り返し、その甚大な戦禍は今もなお続いています。今回のクリスマス会テーマである「願いを重ねる」には、今困難に立ち向かう人々の祈りに心を合わせて平和への願いを重ねる、また、クリスマス会にご出席された皆様の各々の祈りや想いを互いに重ねる時間としたい、という聖書朝礼委員一同の願いが込められています。今回のクリスマス会を通して、皆様の身近なところから世界の平和のために祈りを重ねて、主の御降誕を迎えられたのではないかと思います。

今回のクリスマス献金の献金先は、日本赤十字社

令和6年能登半島地震災害義援金に決定致しました。皆様の多大なるご支援により、29,211円の寄付をいただきました。寄付金は昨年9月に発生した地震及び9月の土砂災害で甚大な被害に見舞われた能登半島地域の復興支援金として役立てられます。ご協力いただき感謝申し上げます。

本年も新年早々に中国のチベット自治区では大規模な地震災害が発生し、現地では今もなお救助活動が行われています。被害者の方々に心を寄せ、震災からの一刻も早い復興を望み、ここ東星学園でも共に世界の平和のために祈りを重ねることができるようになります。



卒業に向けて

卒業式企画委員長 高等部3年 T・S

いよいよ卒業式を迎える季節になりました。東星の卒業式は、卒業生自身で企画するという特別なものです。これまでともに過ごしてきた学年みんなが一丸となり、最高の形でこの節目を迎えたいと思っています。

私たちの学年は、他のどの学年にも負けない「個性」と「ユニークさ」が魅力です。明るく元気な人、頼りがいのある人、静かに支えてくれる人。お互いの違いを認め合い、それぞれの持ち味を生かしてここまで歩んできました。時には意見がぶつかり合うこともありました。そのたびに真剣に向き合い、解決する力を持っているのもこの学年の素晴らしさだと思います。

卒業式の準備を進める中で、みんなの意見を聞き、アイデアを出し合いながら「自分たちらしさ」を形にするプロセスは、とても感慨深いものです。振り返れば、私たちは様々な行事や日常の中で、笑い合い、助け合い、時には励まし合いながら充実した時間を過ごしてきました。

卒業式は、私たちの手で作り上げる最後の学年行事です。だからこそ、これまで支えてくれた先生方や家族、そしてお互いへの感謝の気持ちをしっかりと込めて、一つひとつの場面を大切にしたいと思っています。学年の個性を生かした、心に残る式になることを願います。

卒業を迎える今、みんなとの別れは寂しいですが、これまでの絆はこれからも私たちを支えてくれるはず。それぞれの道を歩いていく中でも、東星で過ごした時間が私たちに強く、優しくしてくれると信じています。

小学校 「心あわせて」

体育科

小学生から高校生までが一堂に会す東星学園の体育祭。今年度も「心あわせて」のテーマの下、児童、生徒、教員までもが様々な競技で汗を流し、午後には手具を用いた演技発表を行いました。

今年度は事前の全体練習日から本番までの間、あいにくの天候が続き、全体練習なく本番を迎えるのではないかと心配されましたが、限られた時間にはなったものの無事に全体練習を経て、本番に臨むことができました。迎えた当日、青く澄んだ空に白い雲の映える非常に恵まれた天候の中、最後まで競技や演技発表に取り組むことができました。

今年度、小学校では複数学年での競技の実施、小学校全体としての演技発表など新しい形式が取り入れられた他、小学校低学年と中学生、小学校高学年と高校生が合同で行う二種類の綱引きなど東星学園の体育祭の良さを存分に引き出した新しい試みがありました。競技練習を他学年と一緒に行うことで学年を超えた関りや支え合いが生まれ、中高生の力強さを体感したりと体育祭ならではの子どもたち同士の関りがあり、

温かな雰囲気を感じる期間でした。

また演技発表では、どの学年も一生懸命練習に取り組み、低学年は可愛い、高学年は力強い表現で見に来てくださった皆様に笑顔や元気をお届けすることができたと感じています。子どもたちと一緒に真剣に競技に参加する教員の姿、競技や演技に加え会場の準備や競技の進行の役割も担う中高生の姿、楽しみながら本気で勝負する小学生の姿が、グラウンドいっぱい広がる一日となりました。

素晴らしい一日をいただいたこと、たくさんの方にご来場いただいたことに心から感謝致します。



東星バザー

バザー委員

10月の最終日曜日は東星バザーです。東星学園の各所で様々なコーナーや発表をするお祭りのような一日です。1. 2. 3年生にとっては買い物やゲームを楽しむことがメインですが、4. 5. 6年生には「働くバザー」でもあります。

クラブ活動で準備するのが制作コーナーとゲームコーナーです。手芸部やアート部など活動の中心に制作があるクラブではバザー制作を行います。楽しく作って、買



う人にも喜んでもらえるような商品を丁寧に作ります。運動系のクラブと児童会ではゲームコーナーを企画します。ストラックアウトでは年齢に応じて難易度を変えたり、ボール落としではハロウィン風のデザインを自作したりと、みんなが楽しめる工夫をしていました。

教科学習とつながっているコーナーもあります。5年家庭科のウェーターウェイトレスです。給食風のメニューを提供する軽食コーナーで配膳等のサービスを行います。お客様のことを考えた言葉使いや立ち居振る舞い、おもてなしの心を学びます。ご家族が楽しみにして来られたり、中高生が自分たちの経験を懐かしむように利用したりと、ほほえましい交流が見られます。普段できない体験に緊張いっぱいの5年生でした。

6年生は音楽の時間に「歌声広場」の発表を準備します。心を合わせてハーモニーを生み出す6年生。今年も明るく元気な歌声が響きました。

保護者の皆さまにも制作品やご寄付、当日のお仕事などたくさんのご協力をいただきました。準備にも時間を使いますが、ともに働き、ともに喜びを分かち合う、東星学園ならではの行事がバザーです。子どもたち、おうちの方、教職員みなが東星学園のために力を合わせ、盛況のうちに終わられたことに感謝いたします。来場された近隣の方や見学の方にも、東星学園にあるあたたかな空気を体験していただければ幸いです。

顔よりも大きな さつまいも

1年担任

11月12日(火)、1・2年生と学校近くの畑へお芋ほりに行きました。当日の朝、「今日のお芋ほり、楽しみだな」と嬉しそうな子どもたち。1時間目の授業を終え、出発の準備です。手には軍手とシャベル、頭には帽子をかぶり、長靴を履いて出発しました。学校から少し歩くと、広い畑が見えてきました。畑の方に、掘る場所を案内してもらいました。自分が掘るさつまいもの株を決め、いよいよ掘り始めます。

シャベルを使い、土の中を掘っていきます。初めのうちは、笑顔いっぱいだった子どもたちですが、なかなかお芋が出てこないことに少しずつ不安を抱き始めました。「大丈夫だよ、きっとあと少しだから」と、友達や先生たちに励まされながら、最後まで諦めずに掘り続けます。すると、ようやく紫色のさつまいもの顔が見えてきました。

「あっ、お芋が見えた!」と、子どもたちは再び笑顔になりました。腕だけでなく、腰や足にも力を入れてお芋を抜いていきます。すると、大きくて立派なさつまいもが採れました。顔よりも大きなさつまいもを見

て、喜んでいました。それから、みんなで採ったさつまいもを手し、学校へ戻りました。

「紅はるか」という種類で、中はホクホクしており、非常に甘いお芋でした。採ったさつまいもはおうちに持って帰り、それぞれ調理して食べました。焼き芋やスイートポテト、さつまいもサラダなど、最初から最後まで味わっていただきました。

秋を体いっぱい感じられた、そんな素敵な時間でした。



クリスマス会

クリスマス委員

12月19日にクリスマス会がありました。「互いに愛し合いなさい」と教えてくださったイエス様になり、今年のクリスマス会のテーマは「やさしさのプレゼント」です。

イエス様をお迎えする準備のための待降節に入っからは、小学校全体がクリスマスの雰囲気包まれます。一人ひとりが、周りの人のためにできるプレゼントは何かを考え行動し、やさしい心で過ごしながら、

クリスマス会に向けて準備を進めていきます。学年毎に役割があり、1年生は天使とベルの飾り、2年生はクリスマスリース、3年生はクリスマス会のポスター、4年生はステンドグラスを作って校舎内を飾ります。そして、5年生は聖劇、6年生はクリスマス合奏を、クリスマス会での発表に向けてそれぞれ準備します。

皆でクリスマスをお祝いできることに感謝し、当日を迎えました。クリスマス会は、第1部の稲川神父様によるクリスマスミサ、第2部の5年生による聖劇「ダビデの町ベトレヘム」、第3部の6年生の合奏に合わせて歌をうたう「みんなでうたおうクリスマス」の3部構成でした。

第1部のクリスマスミサでは、イエス様の誕生をお祝いし、心を込めてお祈りしました。第2部では、この日のためにたくさん練習を重ねてきた5年生が、すばらしい聖劇を披露してくれました。リハーサルの時から更に磨きがかかり、皆の思いが一つになった本番でした。第3部では、6年生の心こもった演奏と子どもたちの元気な歌声が講堂中に響きわたり、とてもあたたかい気持ちになりました。そして、クリスマス会の最後には、小学校全児童と教職員でクリスマスカード交換を行いました。

クリスマスにいただいたたくさんのお恵みに感謝して、新しい年も子どもたちが健やかに成長していくことができますように。

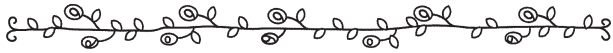


幼稚園



ありがとう、東星学園幼稚園

園長 堀田 しのぶ



2025年3月末で東星学園幼稚園が幕を閉じます。募集停止が決まった2022年2月からすぐに閉園までの3年間の計画を立て始めました。私たちの願いは、子どもが自分で取捨選択する力、考えて行動する力をつけてこの時代をしなやかに逞しく生きていくことです。そのために1年ごとに減っていく園児数を逆手にとって少人数の機動力を最大限に生かして、子どもの「やりたい!」を形にしよう、最後まで在籍する園児と保護者の方と共に東星学園幼稚園らしい保育をとことんやっいていこうと誓いました。

そしてスタートした最後の年2024年度は、年長5名年中3名、計8名の幼稚園。計画通りフットワーク軽く園外に出る機会を多く持ち、最初で最後のお泊まり会を行い、電車とバスを乗り継いで遠足に行きました。畑で育てた野菜で八百屋さんを3回やりました。「やりたい!」と思ったことならみんな根気よくがんばりました。歩くのが苦手な子も駅までの道のりをしっかり歩ききり、野菜を育てるためには害虫を捕まえたり、暑い中草取りをしたり。計画通り「やりたい!」を形にしていきましたが、その過程は計画通りではなくいつも臨機応変に計画変更しながら進めました。やりたいことを形にするとってもやりたいことだけやって形にできるわけはなく、あまりやりたくないことも当然ありましたが、やりたいことをとことんやっていると案外抵抗なくすべてのことをクリアできてしまうようでした。やりたいこともあまりやりたくないこともすべて自分たちで行うことで友だちと分担して協力することや得手不得手を自覚して補い合うことが自然にでき、いつのまにかいつでも何でも8人全員でするようになりました。まさに兄弟姉妹のような集団です。

8人の兄弟姉妹はどんどん距離が縮まり、自分の気持ちや考えを言うことも最初は緊張したり遠慮していたのがいつしか自然に伝えあうことができるようになっていきました。想定していたよりも1人ひとりの「幼稚園での顔」と「家庭での顔」の差が縮んできて、幼稚園という集団生活の場の過ごし方はこれでいいのかと考えさせられることもありました。しかし、子どもが家庭ではない場所で親以外の人から大切にされ、自分を尊重された経験、やりたいことをとことんできた経験、自分を表現できた経験、友だちと気持ちを共有して心を通わせた経験こそ今大切にすべきこと。経験する中でたくさんの学びがあります。その経験があれば、環境が変わればそこでどうすべきか、多少の試

行錯誤は必要でも必ず自分で見つけていけるはずで

す。東星学園幼稚園は「自立した子どもを育てる」ことを大切に教育を行ってきました。「自立する」ということは自分で自分のことを決めて自分で行き、自分で最後まで責任をもつこと。それは大人になって急にできることではないし、子どもにできないことでもありません。生まれた時からその年齢なりにできるはずで

す。子どもの「やりたい!」はいつも子どもにとっては遊びですが、その一つひとつが学びであり成長の糧です。泥んこ触ってみたい!こねてみたい!としているうちに手指のコントロールが思うようにできていくように子どもはいつも「やりたい!」をしながら成長していきます。私たちはとことんそこに拘って子ども達が輝き、力をつけていく姿を見守ってきました。8人の園児が毎日思いきり園生活を楽しんでいつでも笑顔で明日も幼稚園に来たい!と思ってくれていることが心からの喜びです。

85年間で卒園生は3654名になります。東星学園幼稚園が東京都から認可を受けたのは1940(昭和15)年11月30日ですが、五十嵐茂雄著『フロジャク神父の生涯』によると、「昭和13年(52歳)7月に東星尋常小学校に幼稚園を併設」とあります。ベタニア修道女会発行のフロジャク神父様の日記を日本語に訳した『ベタニア/バトレヘム日記』には、この年から幼稚園に関する記述が所々に見つかります。

—3月27日(日)
28日と29日カジャク師からいただいた山の木を売るために上沢へ行く。(東星幼稚園を建てるため)

—10月17日(月)

バトレヘムで土井大司教司式にて東星幼稚園の祝別。

—10月28日(金)

東星学園の前庭で例年の運動会が行われた。参加者は施設の子供60人、外からの通学生20人、幼稚園の子供、みんな合わせてだいたい100人。よい雰囲気の中で、おとなたちまでも行事に参加。天気にも恵まれ、きょうの運動会は皆にとって喜びの日であった。創立3年目になる東星学園が、このような運動会をもつことができたのは大きな成長といえるだろう。

それなのに、幼稚園の火を消してしまうことになり申し訳なく無念でなりません。8名の園児がこれからも生き生きと成長していくこと、共に働いた教員がそれぞれの場所で輝き続けることを願うばかりです。東星学園が神さまの愛に守られ温かい場所であり続けよう。お支えくださった全ての方に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



熱しやすく冷めやすい病
でも止まらないCCB!!
とうせいキッズ 職員

あけましておめでとう
ございます! かし。です。

そんな病は为什么呢...それはずばり恋。(なんてロマンスなんだろう笑)
人間の脳はおもしろいことに7秒で恋をするそうです。感情の昂り、フェロモンの一致、
それらの要因が脳新皮質に反応して恋という気持ちが生まれるメカニズムになってるそうです。
それが行われるまでに7秒。化学的に考えるとロマンスなんて全くないけど、それを理解
しているかどうかで今、思っ
ている感情は恋なのか、ただ自分
の数ある“好きリスト”にエントリー
されただけなのか...

長く続く付き
合っていないかな
ならないこの病
を理解して
楽しめる時に楽しむのも良いかもしれないですね?
今回はそんな熱することも冷めることも苦手が
故に絶滅してしまったヘビのおはなし。

ドラマチックに
セイエイ イエイ
ラ——ヴ

ティタノボア

6000 万年 前のコロンビアに生息した史上最大のヘビ!!

分類: 爬虫綱有鱗目ボア科

☆...☆...☆...☆...☆...☆...☆...☆

ティタノボアの脊椎は現生のボアの
脊椎の数倍の大きさを誇る!!



ボアの全長が約3.4mであることを考えると、推定
されるティタノボアの全長は13m!! (ヤベーデケー!!)

水の中を泳ぎ回って時にはワニをおそうことも

あったそうです。推定体重も1t以上!! 筋肉の束のような体で
獲物を絞め殺したそうです。

あごは180度まで開き、自転車
くらいなら丸呑みできてしま
うそうです。(ヤベー!!)

だけど巨体すぎたがゆえに体温調節
が難しく絶滅したと考えられているそうです。

すごく
開くアゴ

ゴアー。

ちなみにワニとカバ、どちらが強いのかを専門
家に聞いてみたら、カバの方が強いそうです。マメ知識を
最後に言ってみたくなったかし。でした。

広 報

本学園の広報活動についてお知らせいたします。

【中学校】

入学試験

- 第1回一般(2科)：2月1日(土) AM
- 国語1教科：2月1日(土) PM
- 得意2教科：2月2日(日) AM
- 第2回一般(2科)：2月2日(日) PM
- 第3回一般(2科)：2月4日(火) AM

願書受付

- 第1回一般：1月10日(金)～1月31日(金)
- 国語1教科：1月10日(金)～2月1日(土)
- 第2回一般：1月10日(金)～2月1日(土)
- 第3回一般：1月10日(金)～2月2日(日)
- 第4回一般：1月10日(金)～2月3日(月)

【高等学校】

入学試験

- 第1回一般：2月10日(月)
- 第2回一般：2月11日(火・祝)

願書受付

- 第1回一般：1月25日(土)～2月7日(金)
- 第2回一般：1月25日(土)～2月10日(月)

☆中学入試、高校入試の2次募集や追加募集を実施する場合、本学園HPにてお知らせいたします。

学園行事予定(2025年2月・3月)

	中学校・高等学校	小学校	幼稚園
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・中学入学試験 ・数学検定 ・高校一般入学試験 ・新入生制服採寸 ・送別会 ・卒業式リハーサル ・卒業感謝のミサ 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会役員選挙 ・遊びバイキング ・高学年朗読大会 ・児童会役員認証式 ・新1年生保護者会 	
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業式 ・宿泊語学研修(中学2年生) ・英語村(中学3年生) ・進級判定会 ・終業式 	<ul style="list-style-type: none"> ・1～6年懇談会 ・6年生を送る会 ・卒業感謝のミサ ・卒業式リハーサル ・卒業式 ・終業式 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒園式・修了式 ・幼稚園感謝のミサ

園児・児童・生徒の活動報告

【表彰】

第122回 清瀬市秋季市民卓球大会

男子 準優勝 W・H(小5)

女子 準優勝 I・K(小4)

令和6年度 清瀬市「税についての作文・標語」

・「税についての作文」

清瀬市教育委員会 教育長賞 T・M(中3)

読書感想文コンクール

【入賞】 T・M(中3)

【奨励】 K・M(高2)

【奨励】 T・Y(中3)

・「税の標語」

東京都立川都税事務所長賞 I・M(中3)

全国間税会総連合会 入選 A・R(中3)

2025年が幕を開けました。聖年の今年は私たちも心の扉を開き、互いへの理解を深められる一年にしていきたいですね。

今年も「東星学園だより」を通して児童生徒の様子をお届けします。よろしくお願いいたします。

(中高)